

テナガエビ（霞ヶ浦）



生態的特徴等：

【生態】

- ・河口域や湖沼などの流れのゆるやかな水域に分布し、本州、四国、九州など国内に広く分布する。県内では、利根川水系、牛久沼、霞ヶ浦・北浦、涸沼、那珂川水系、久慈川水系などに分布する。
- ・寿命は、メスが1年、オスが2年といわれ、オスは第2胸脚が体長以上に長くなる。
- ・霞ヶ浦・北浦における抱卵期は、5月下旬～9月頃で、盛期は7～8月。ただし、抱卵は水温の影響を受けるため10月や11月まで続くこともある。
- ・季節的には、水温の高い6～9月は沖から岸近くまで分布するが、水温が低下する10月以降は主に沖合の深所に分布するほか、物かげに蟄集する傾向がある。

【漁法と漁期】

- ・わかさぎ・しらうおひき網漁業（トロール漁）、いさざ・ごろひき網漁業（横ひき網漁）などの底曳網やます網漁業（張網）、つけ漁業（笹浸）などで、周年にわたり漁獲される。

【資源管理の取組】

- ・トロール漁において、産卵期保護のため試験操業による解禁日の設定や資源動向に応じた操業時間の変更、親魚保護のため保護区域の設定や終漁日の設定などの取組が行われている。

【利用】

- ・霞ヶ浦北浦で漁獲されたものは釜揚げや佃煮、素揚げ等として食される。稚エビは地元で「ザザエビ」と呼ばれ、成長したエビよりも軟らかく食べやすい。

資源診断：

<p>資源水準は低位、動向は横ばい傾向</p> <p>（漁獲量）H4年からH9年には1,400～2,500トンの水準で推移したが、H10年以降は減少傾向になり、H15年には322トンとなった。H16年からH23年までは平均500トンの水準で横ばいだったが、H24年以降は300トンを下回るようになり、R6年は5トンとなった。</p> <p>（水準と動向）R6年の資源水準は過去30年の漁獲量から「低位」、R7年までの直近5年間の動向は、操業日誌を基に計算したCPUE（kg/隻・時間）の傾向から「横ばい」とした（図2）。</p>	水 準
	低位
	動 向

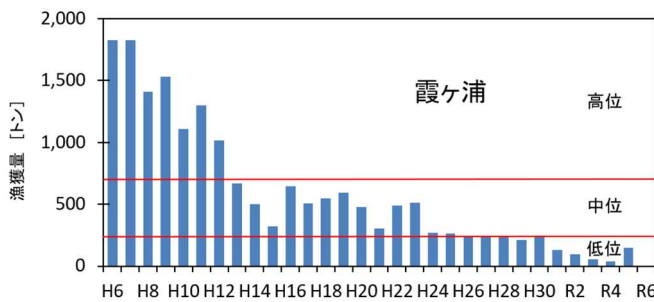


図1 エビ類の漁獲量（属人）

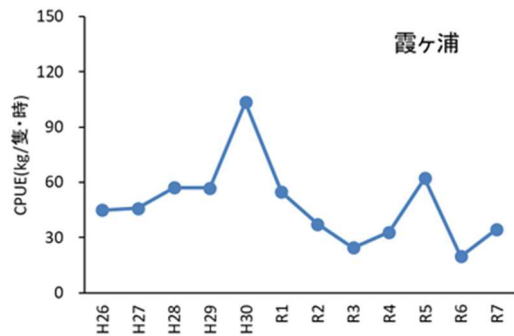


図2 エビ類のCPUE（1隻・1時間当たりの漁獲量 kg）

（使用データ）資源水準：令和元年まで農林統計値、2年以降は県霞ヶ浦北浦水産事務所集計値
 資源動向：令和7年12月までの操業日誌

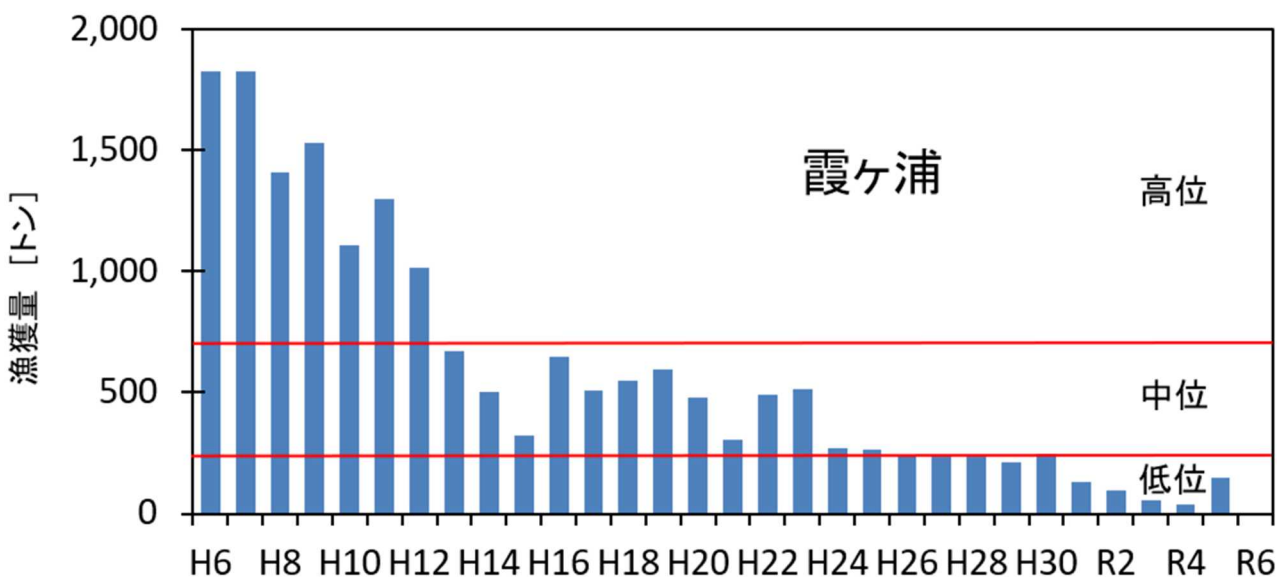


図3 エビ類の漁獲量（属人）

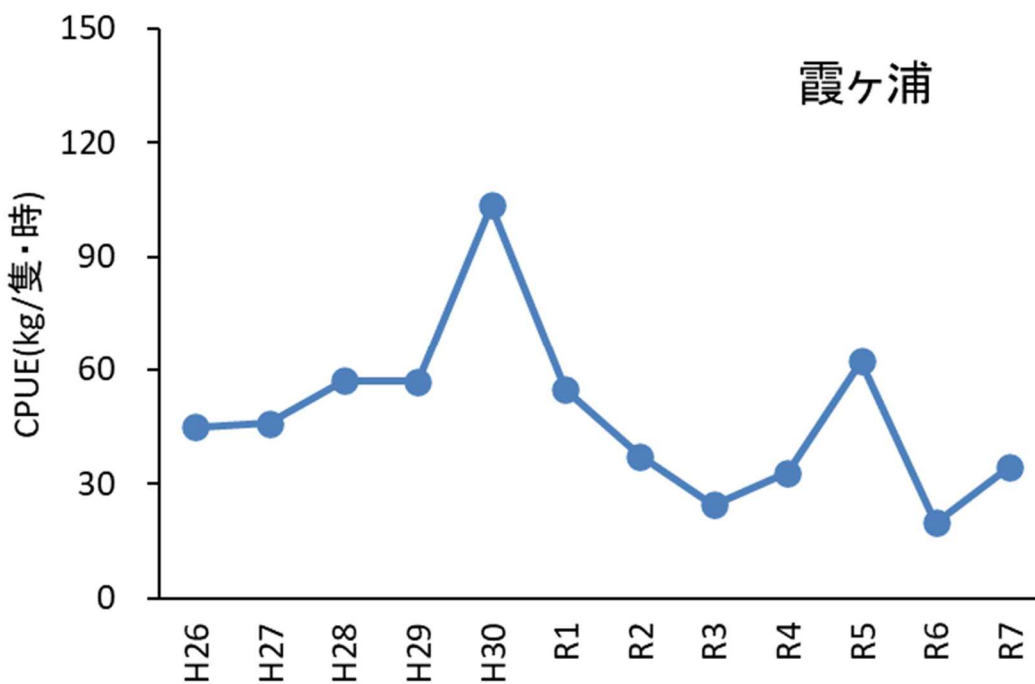


図4 エビ類のCPUE（1隻・1時間当たりの漁獲量 kg）

【全国の漁獲順位】エビ類 R6年：1位：滋賀県、2位：北海道、3位：茨城県・岡山県

(使用データ) 資源水準：令和元年まで農林統計値、2年以降は県霞ヶ浦北浦水産事務所集計値
 資源動向：令和7年12月までの操業日誌